

今号では7月に着任した技術職員の自己紹介記事を掲載します。担当する装置や業務内容について記載されています。



着任のご挨拶 装置開発ユニット 磯谷 俊史

2024年7月より装置開発ユニットへ着任いたしました磯谷俊史と申します。6月までは大学を卒業してからの約12年間、名古屋大学工学研究科装置開発技術支援室で技術職員として勤務しておりました。旋盤・フライス盤といった汎用工作機械、マシニングセンタやワイヤ放電加工機などのNC機から溶接まで、実験装置を製作する過程で様々な工作機械を使用してモノづくりに携わってきました。

生まれも育ちも岡崎で生粋の岡崎人である私は、いずれは地元の分子研で働きたいと考えていたところ、タイミングやご縁が重なり分子研への赴任が決まりました。もともとモノづくりや機械いじり（特に車やバイク）が好きで、分解・組立を通してそのモノの構造を理解するといったことをよくやっていたところ、時には失敗することもあります。そういった経験がこれまでの仕事の糧になっていると思っております。赴任して数日が経ち、分子研の工場に立ち入った際には、ここが新しく自分がモノづくりをする現場なのだと思いがふつと湧いてきました。名古屋大学時代と変わらず装置製作に関わることになり、現在は工場に設置されているCNC旋盤を主に使用しつつ、操作やプログラミング方法を学びながら新しい環境での機械加工を始めております。設計についてはあまり深く関わった経験が無いので、ノウハウなどを学びながら加工技術の研鑽にも取り組み、研究支援という立場で貢献できればという思いで日々業務にあたっております。



図1 着任後CNC旋盤での加工
(一般公開用トロフィーの土台製作)



機器分析ユニット着任にあたって 機器分析ユニット 南田 悠

2024年7月より着任しました南田悠と申します。着任前は、大学の技術職員として4年間従事し、主に研究支援や授業補助、研究機器による測定業務に励んでおりました。学生時代から、農芸化学を専攻し、海藻や微生物から抗菌性等を有する機能性成分を探索する研究に従事しておりました。

その研究や業務の中で、NMR（核磁気共鳴分光法）やMS（質量分析法）等の化学系の機器分析との出会いがありました。研究を行う中で、生体試料から得られた分子が既知成分か、それとも新規成分かの判断をNMRやMSを用いて行うことが多々あります。その際、教員や職員の方と共に分析結果を解析し、新規成分が得られた時の宝探しのような醍醐味が忘れられず、気がつけば10年間測定や業務等で携わっていました。分子研では、NMRとMSの保有台数も多く、技術職員の方々が測定や解析だけでなく管理や他機関の利用者への共同利用支援もされていると伺いました。私も分析機器の管理や運用に携わる業務をいち早く覚え、使用者が利用しやすい環境作りの一助となれば幸いです。

一方、安全衛生管理室の化学薬品担当を兼務することとなり、先日、職場内安全巡視に同行させていただきました。今後、できる限り円滑に安全衛生管理業務を進められるよう業務の把握に努めていければと存じます。安全巡視等で見かけられた際には、お気軽にお声がけ下さい。

最後になりますが、研究所に勤めることが初めてであり、不慣れな点も多いかと存じますが、精一杯務めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

